

木材需給動向について (九州地区)

2024年1月
林野庁

全国の木材需給動向について、
林野庁ウェブサイト（下記URL）にて
毎月資料を更新しています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikai.html>
（QRコードからもアクセスできます。）



さらに・・・

林産物に関するマンスリーレポート「モクレポ」
木材・木材製品、特用林産に関する最新の統計
データや、林野庁の施策に関するトピックス、セ
ミナー・イベントの情報などを取りまとめ、毎月
中旬に更新しています。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei/monthlyreport.html>
（QRコードからもアクセスできます。）



目次

1 価格の動向

(1) 原木価格（原木市場・共販所）

ア スギ（全国）

イ スギ（九州地区）

ウ ヒノキ（全国）

(2) 製品価格

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材（全国・九州地区）

(2) 合板（全国）

(3) チップ（全国）

3 住宅着工戸数の動向

(1) 全国の住宅着工戸数

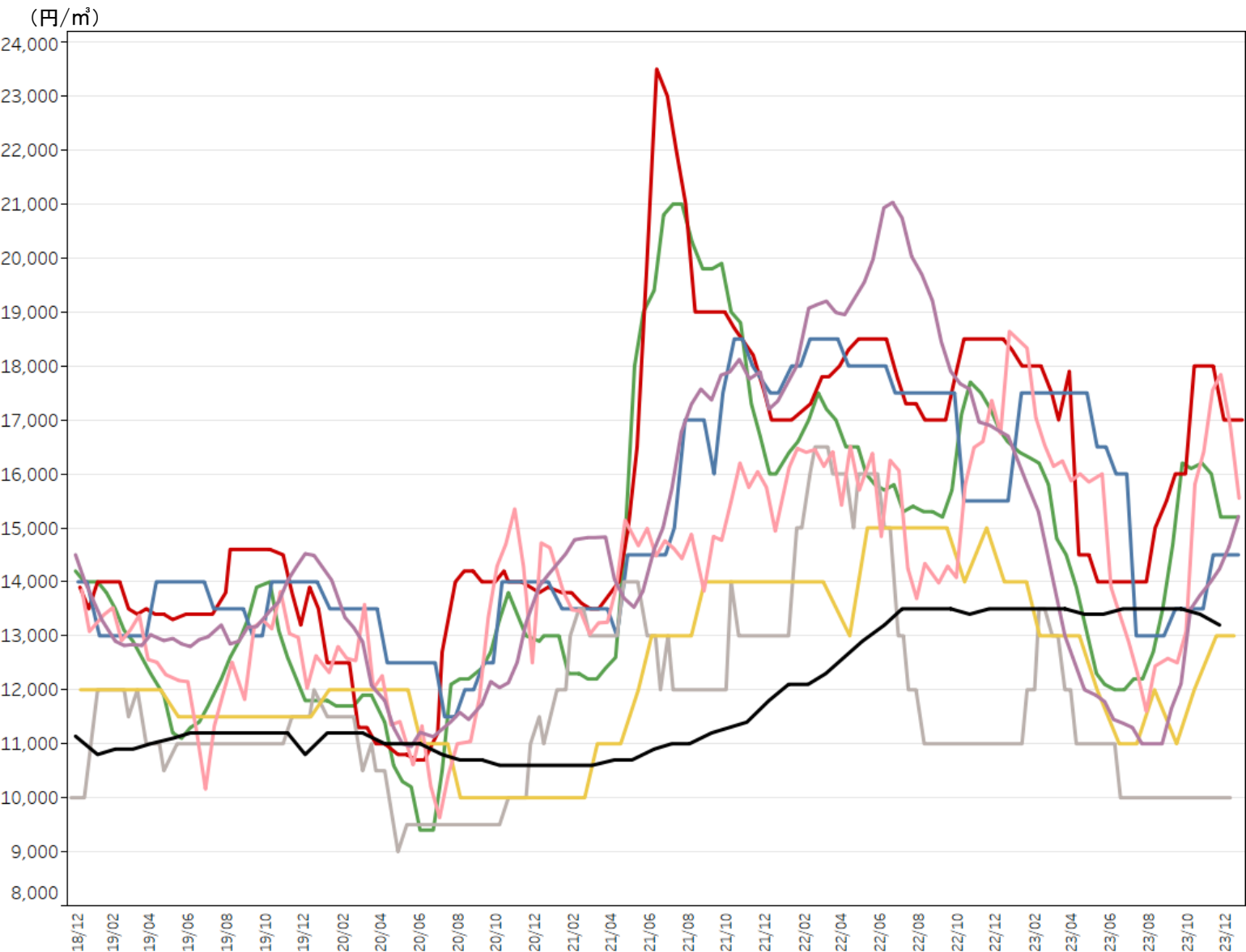
(2) 九州地区の住宅着工戸数

4 木材輸出量

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

• 全国の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、10,000円~17,000円/m³となっている。



(単位：円/m³)

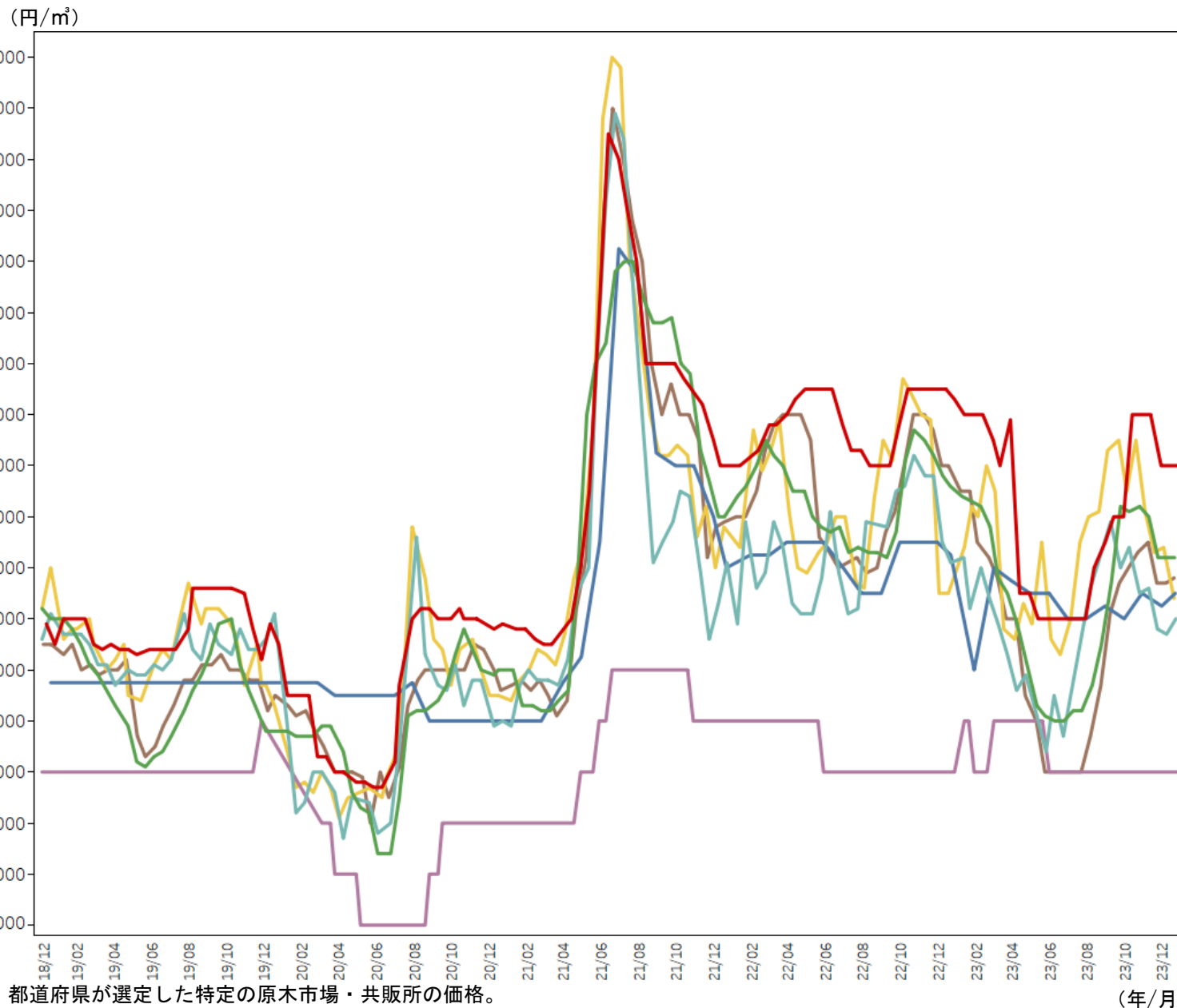
都道府県	2023年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	13,200	13,500	98%
秋田県	15,210	16,700	91%
栃木県	15,550	18,640	83%
長野県	13,000	14,000	93%
岡山県	10,000	11,000	91%
高知県	14,500	15,500	94%
熊本県	17,000	18,300	93%
宮崎県	15,200	16,600	92%

※北海道については11月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については12月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
 注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
 資料：林野庁木材産業課調べ

イ スギ（九州地区） 径24cm程度、長3.65~4.0m（2018年12月~）

九州地区の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、11,000円~17,000円/m³となっている。



(単位：円/m³)

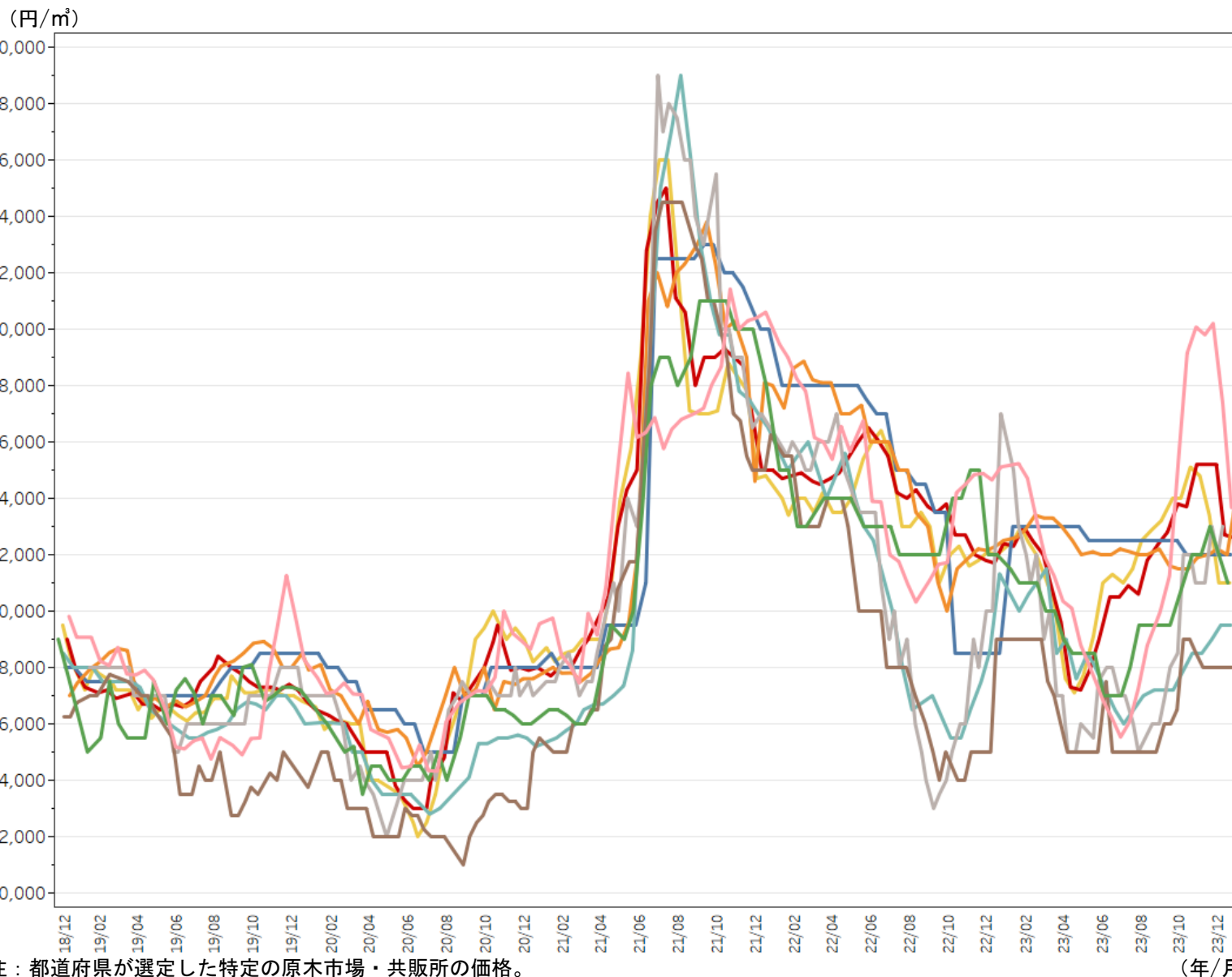
都道府県	2023年直近※	前年同期	前年同期比
福岡県	14,000	15,100	93%
佐賀県	14,500	15,250	95%
長崎県	11,000	11,000	100%
熊本県	17,000	18,300	93%
大分県	14,400	14,500	99%
宮崎県	15,200	16,600	92%
鹿児島県	14,800	17,000	87%

※各県12月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

ウ ヒノキ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のヒノキ原木価格は、18,000円~23,700円/m³となっている。



(単位：円/m³)

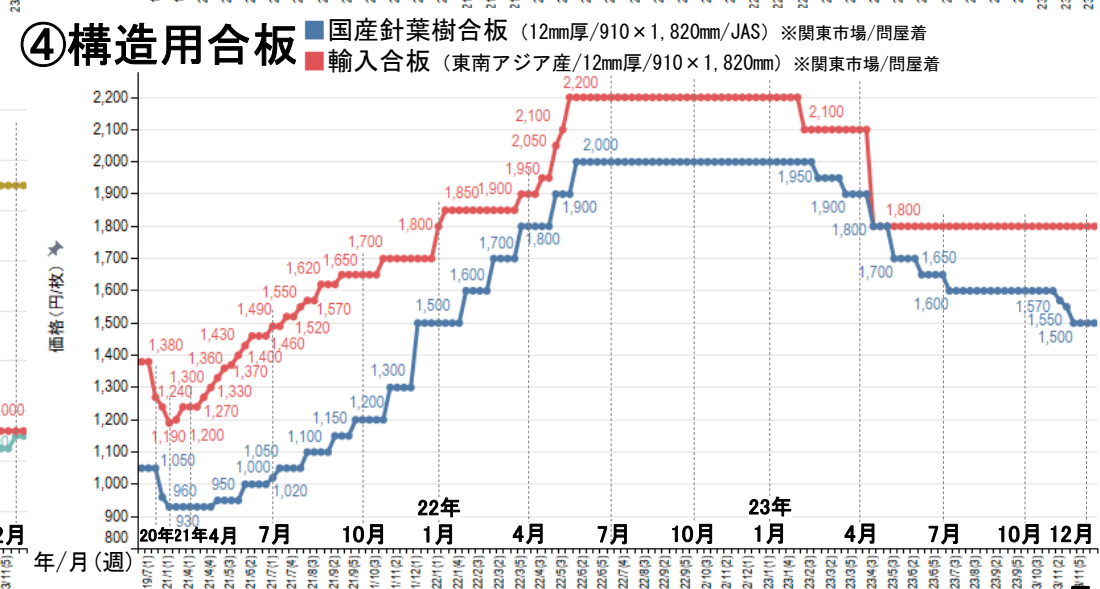
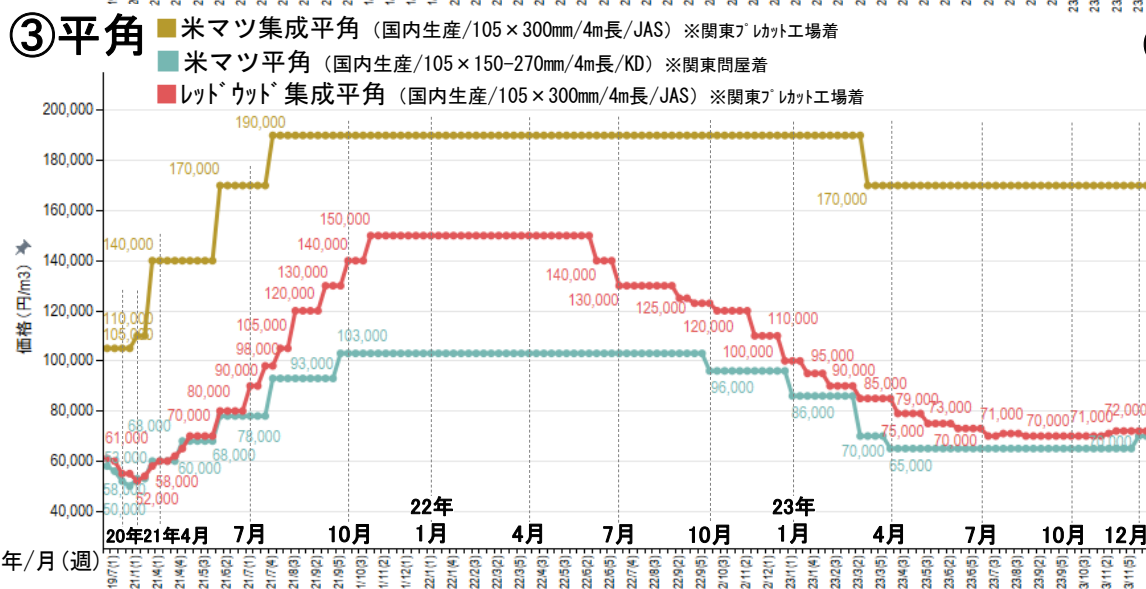
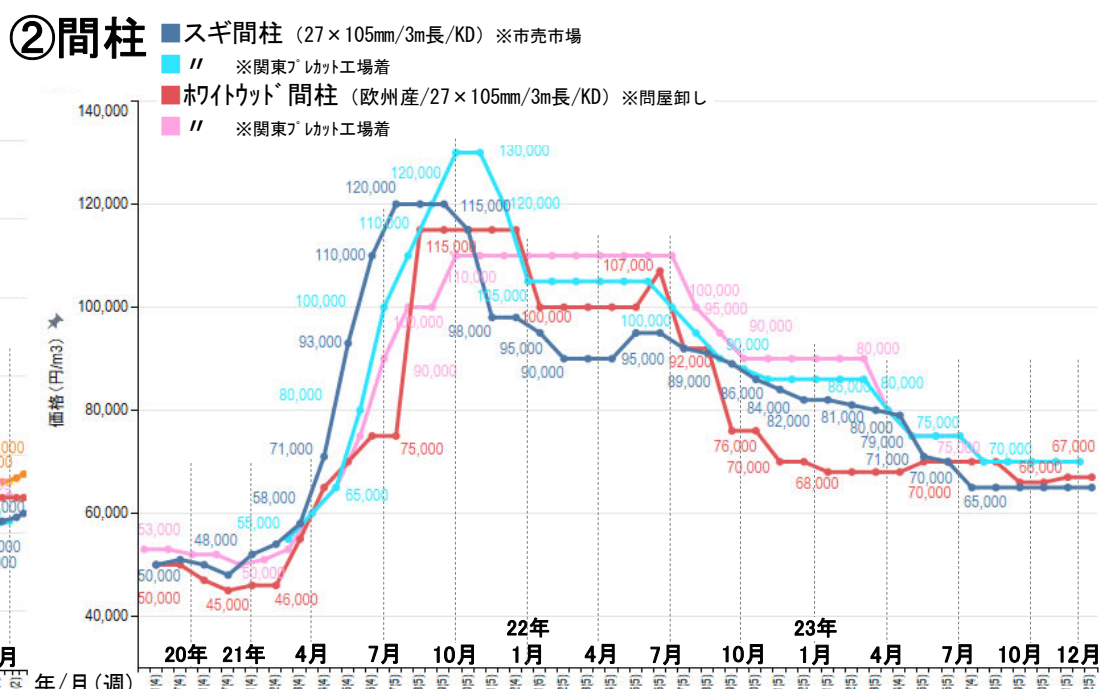
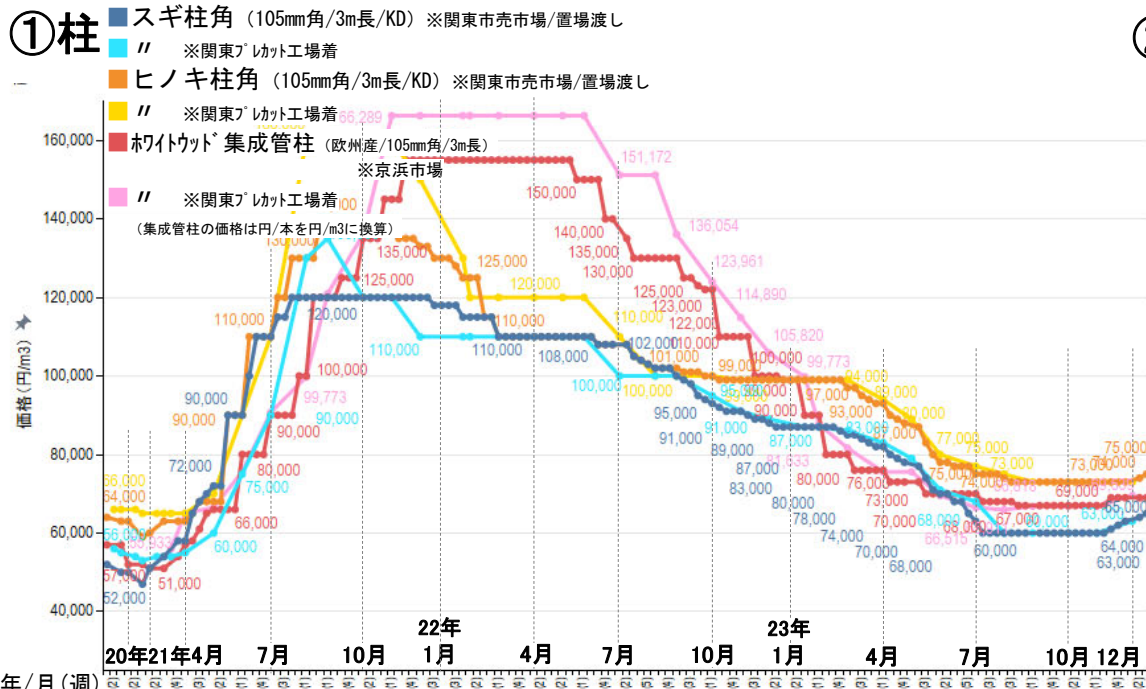
都道府県	2023年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	23,670	25,110	94%
静岡県	21,000	22,000	95%
兵庫県	18,000	19,000	95%
岡山県	23,000	20,000	115%
広島県	19,500	21,320	91%
愛媛県	23,700	22,500	105%
高知県	22,000	18,500	119%
熊本県	22,600	22,400	101%
大分県	21,000	22,000	95%

※各県12月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格

- 令和3(2021)年は、世界的な木材需要の高まり等により輸入材製品価格が高騰し、代替需要により国産材製品価格も上昇。令和4(2022)年以降、柱、間柱、平角の価格は長期的に下落傾向であったが、令和5年夏頃より概ね横ばいで推移。構造用合板の価格は、令和5(2023)年以降、下落傾向。

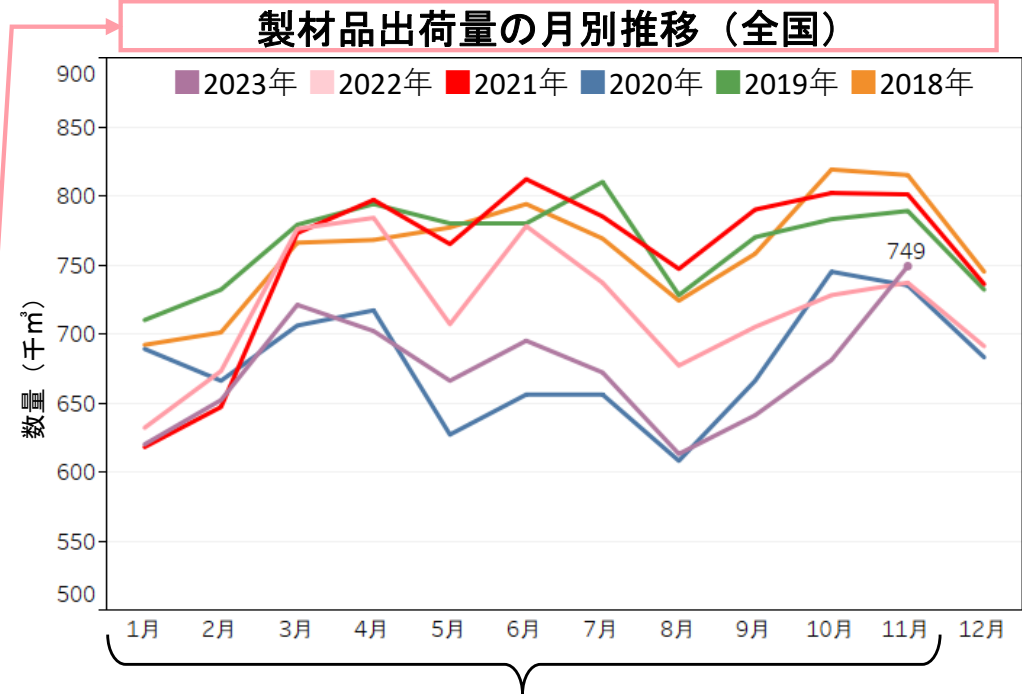
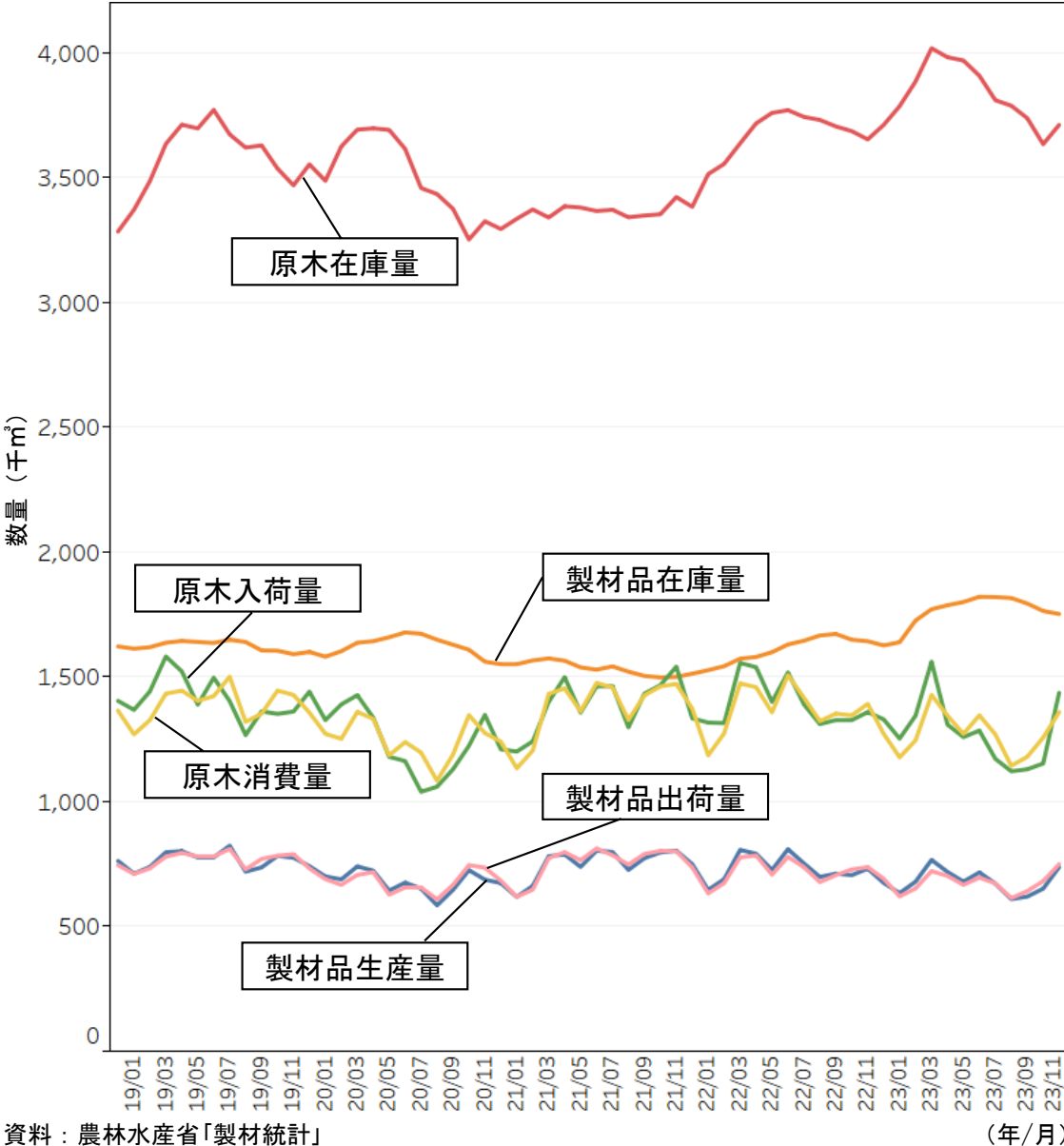


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- 2023年1～11月の原木の入荷量は14,014千 m^3 (2019年比90%)。
- 同様に製材品の出荷量は7,412千 m^3 (2019年比88%)。

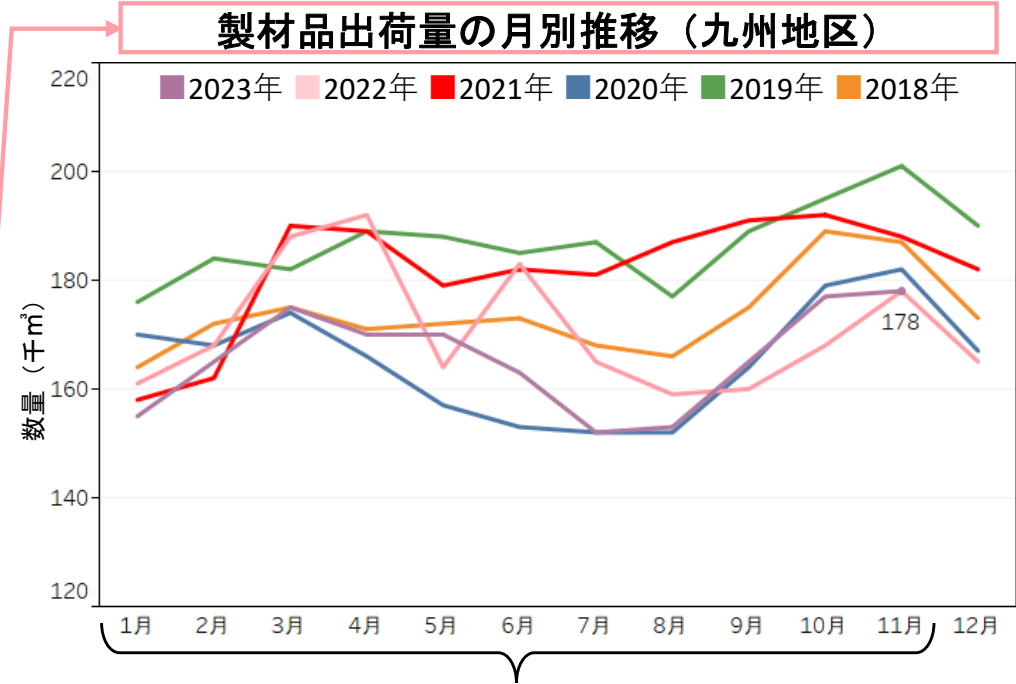
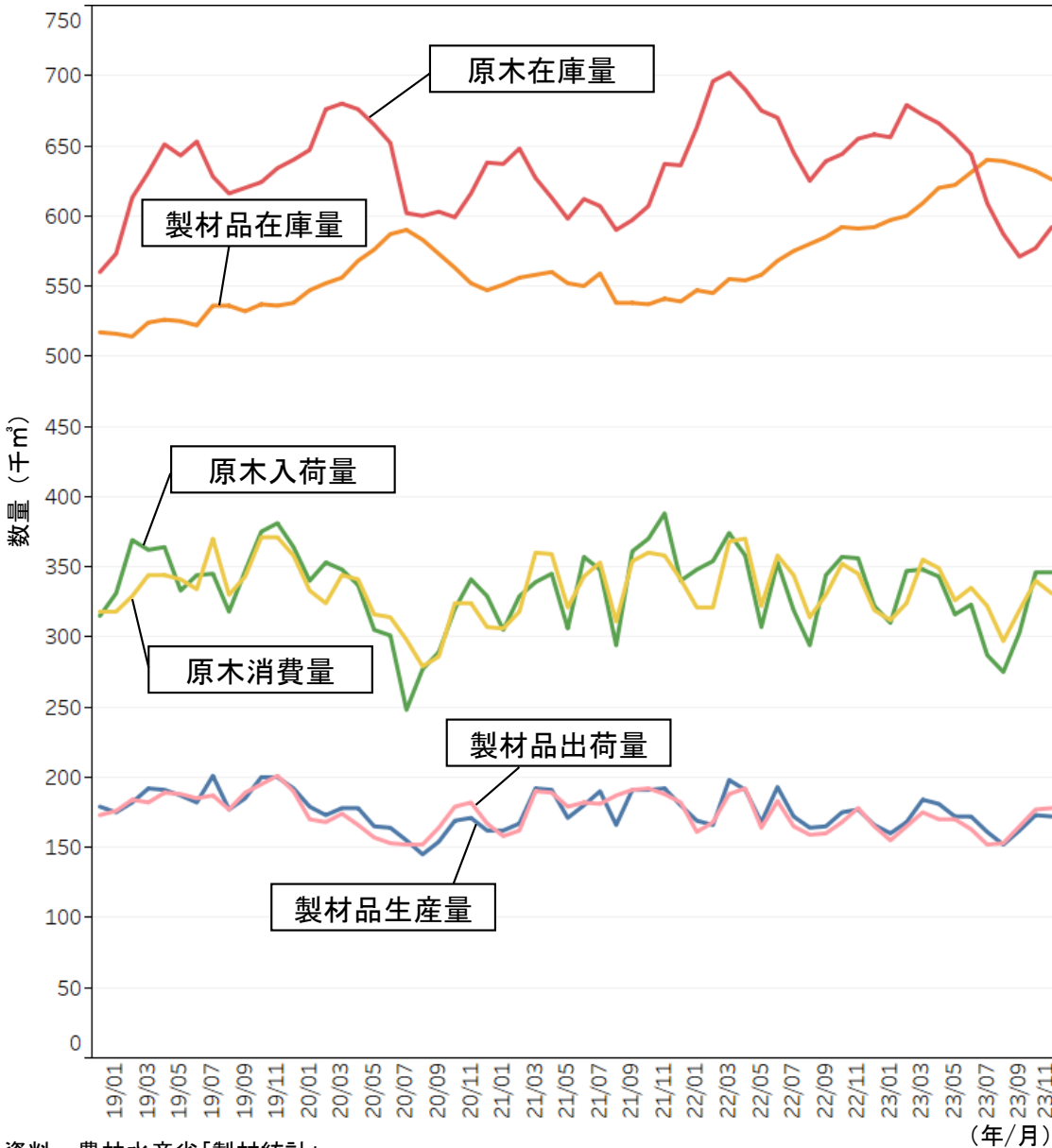


	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1～11月原木入荷量合計(千 m^3)	15,276	15,534	13,615	15,352	15,348	14,014
2019年との比較*	98%	—	88%	99%	99%	90%
1～11月製材品出荷量合計(千 m^3)	8,383	8,455	7,471	8,337	7,934	7,412
2019年との比較*	99%	—	88%	99%	94%	88%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

(1) 製材 (九州地区)

- 2023年1～11月の原木の入荷量は3,544千m³ (2019年比92%)。
- 同様に製材品の出荷量は1,823千m³ (2019年比89%)。

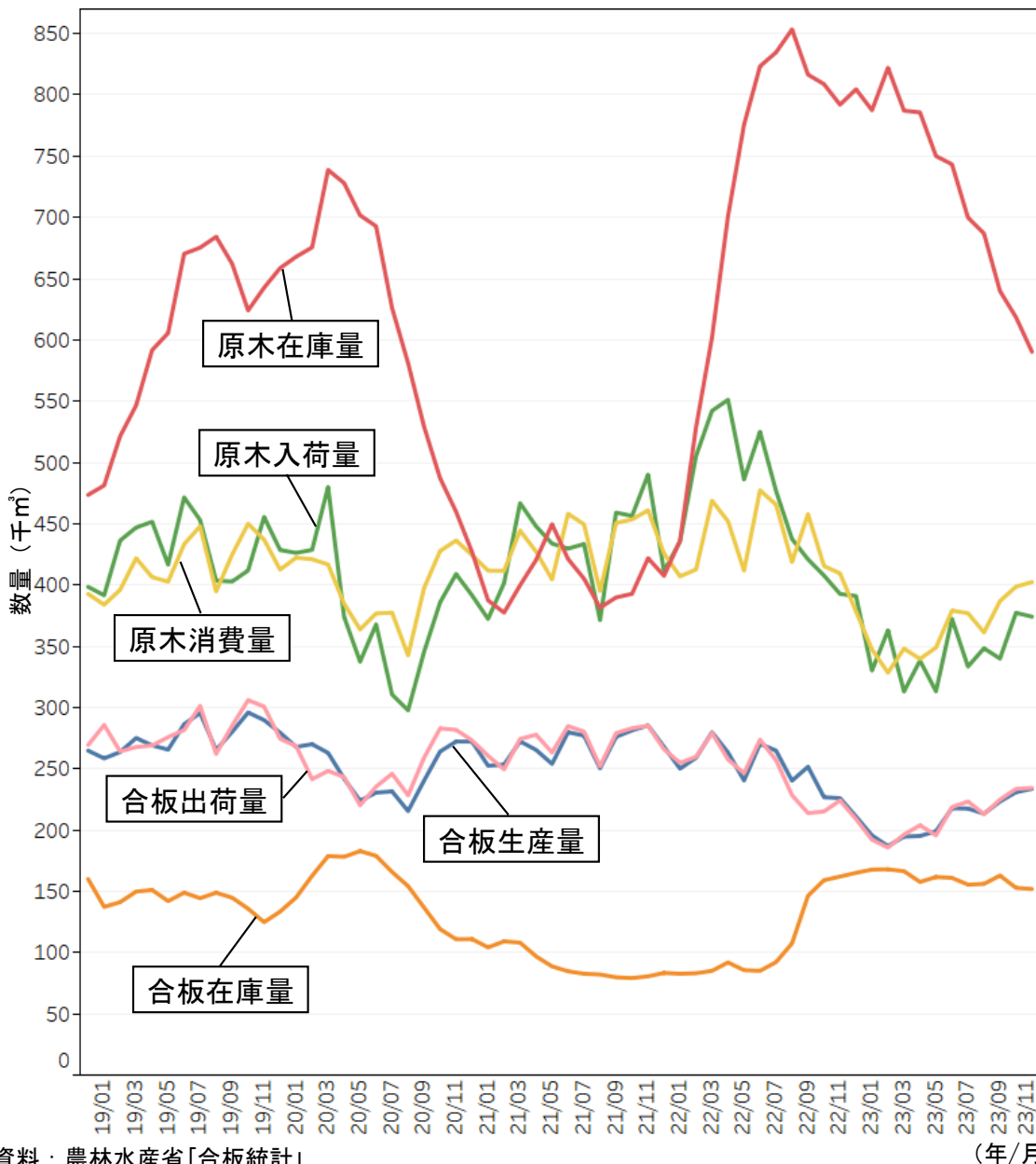


	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1～11月原木入荷量合計(千m ³)	3,553	3,869	3,459	3,742	3,764	3,544
2019年との比較*	92%	—	89%	97%	97%	92%
1～11月製材品出荷量合計(千m ³)	1,912	2,053	1,817	1,999	1,886	1,823
2019年との比較*	93%	—	89%	97%	92%	89%

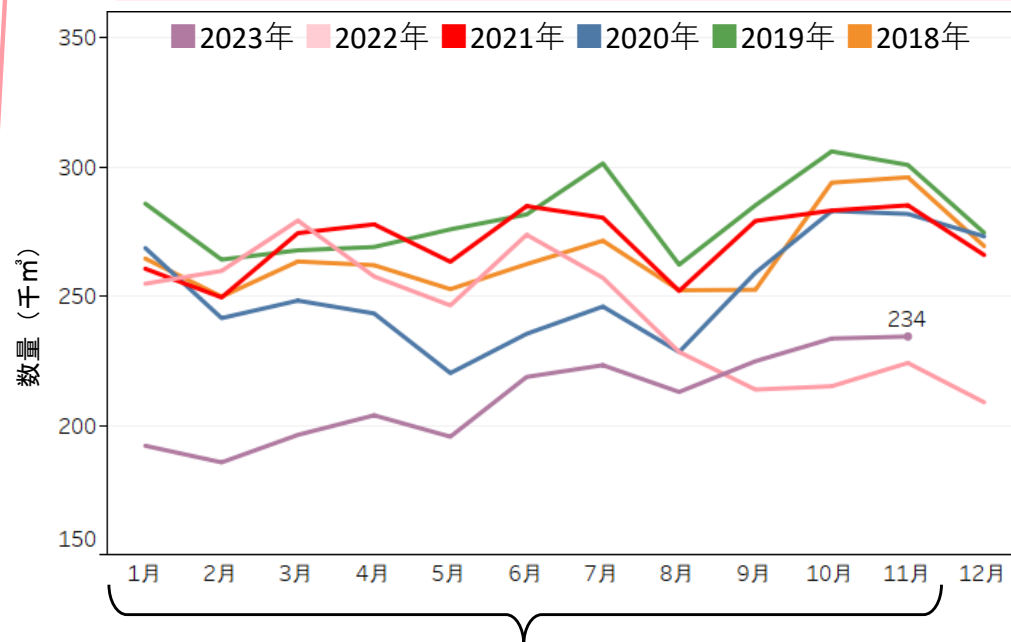
※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

(2) 合板 (全国)

- 2023年1～11月の原木の入荷量は3,803千 m^3 (2019年比80%)。
- 同様に合板の出荷量は2,321千 m^3 (2019年比75%)。



合板出荷量の月別推移 (全国)

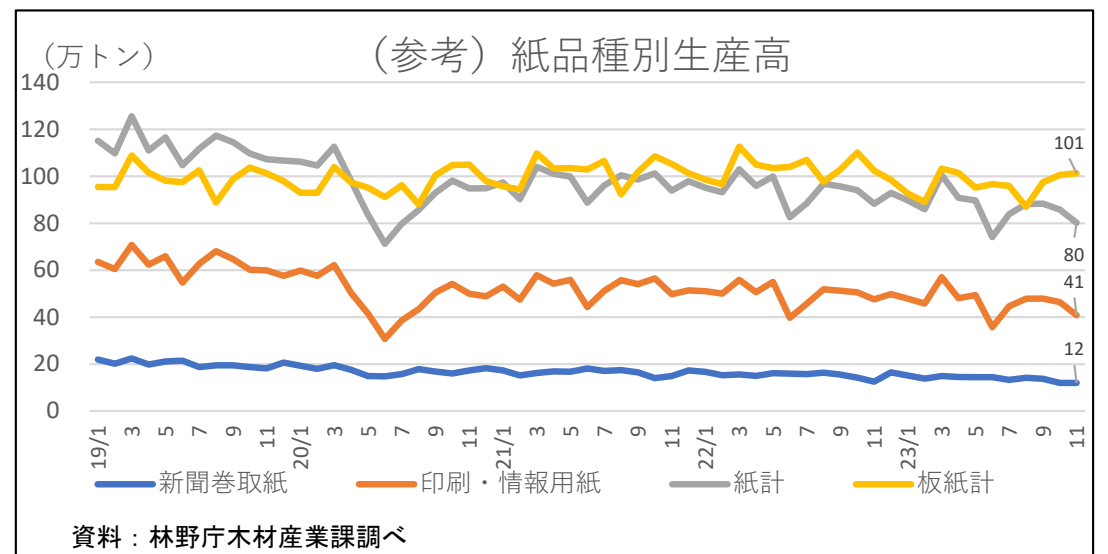
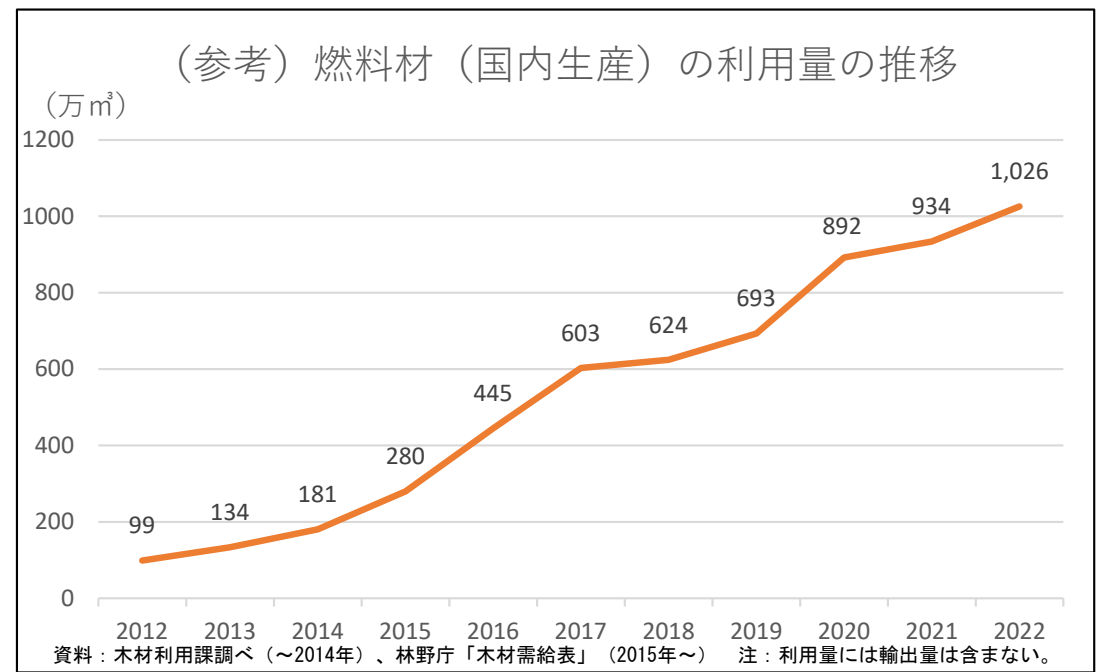
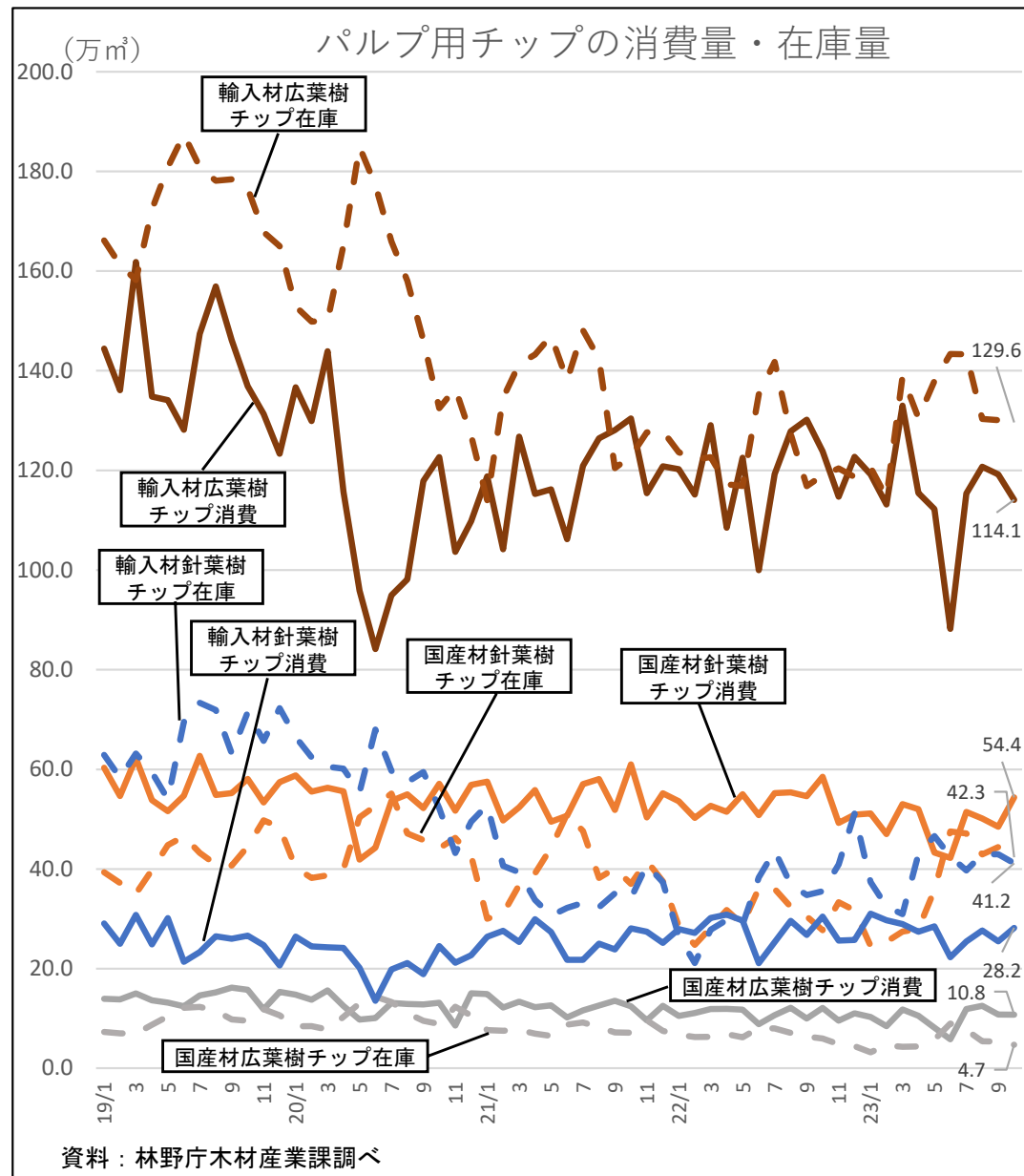


	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1～11月原木入荷量合計(千 m^3)	4,532	4,741	4,162	4,762	5,181	3,803
2019年との比較*	96%	—	88%	100%	109%	80%
1～11月合板出荷量合計(千 m^3)	2,920	3,099	2,755	2,990	2,710	2,321
2019年との比較*	94%	—	89%	96%	87%	75%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

(3) チップ (全国)

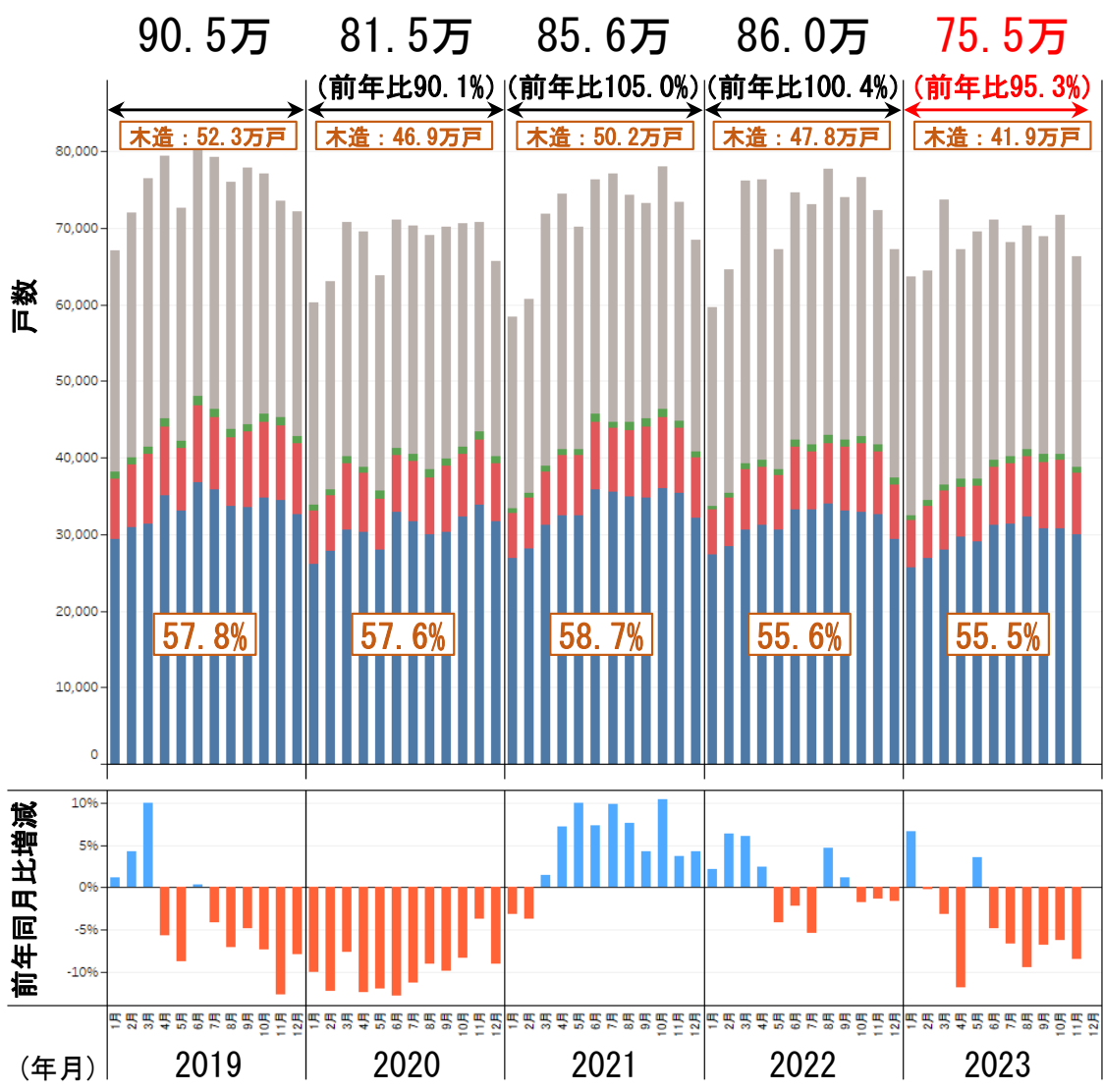
- パルプ用チップの消費について、2023年10月の輸入材広葉樹チップの消費量は114.1万 m^3 。国産材針葉樹チップの消費量は54.4万 m^3 となっている。
- 燃料材（国内生産）の利用量は、発電利用を中心に増加（過去10年間で約10倍）。



3 住宅着工戸数の動向 (1) 全国の住宅着工戸数 (2019年1月～2023年11月)

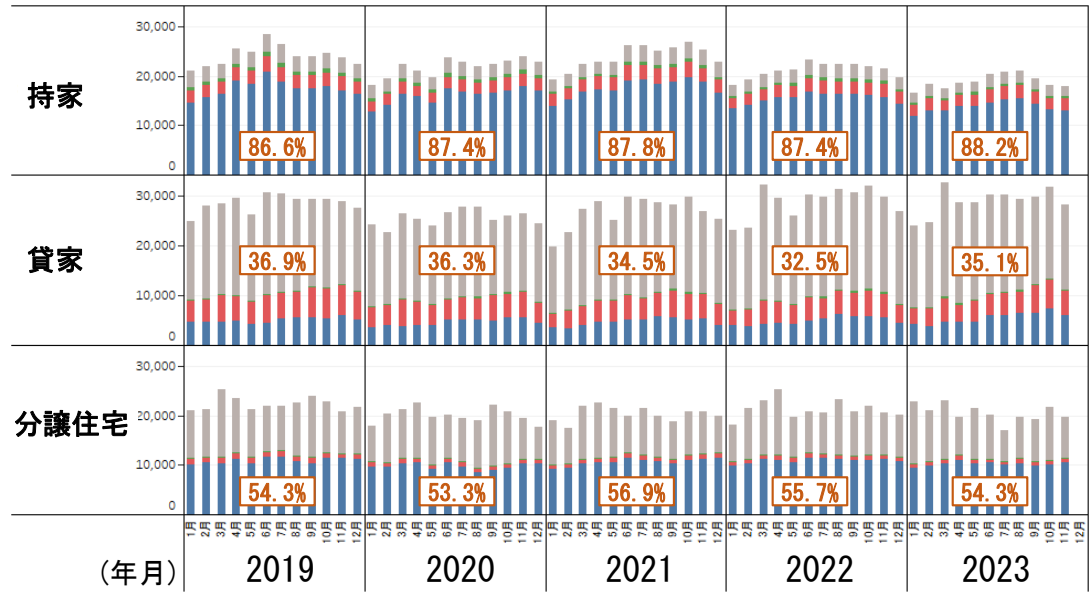
- 2022年の新設住宅着工戸数は、86.0万戸（前年比100.4%）、このうち木造住宅は47.8万戸（同95.1%）となり、2021年の水準を下回った。
- 2023年1～11月の新設住宅着工戸数は、75.5万戸（前年同期比95.3%）、このうち木造住宅は41.9万戸（同95.0%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2023年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	755,037	792,280	95.3%	788,091	95.8%
■非木造	336,340	351,775	95.6%	326,621	103.0%
木造	418,697	440,505	95.0%	461,470	90.7%
■木造プレハブ	9,432	9,309	101.3%	9,685	97.4%
■2×4	83,642	84,111	99.4%	88,202	94.8%
■在来軸組	325,623	347,085	93.8%	363,583	89.6%
□木造率	55.5%	55.6%		58.6%	

(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)

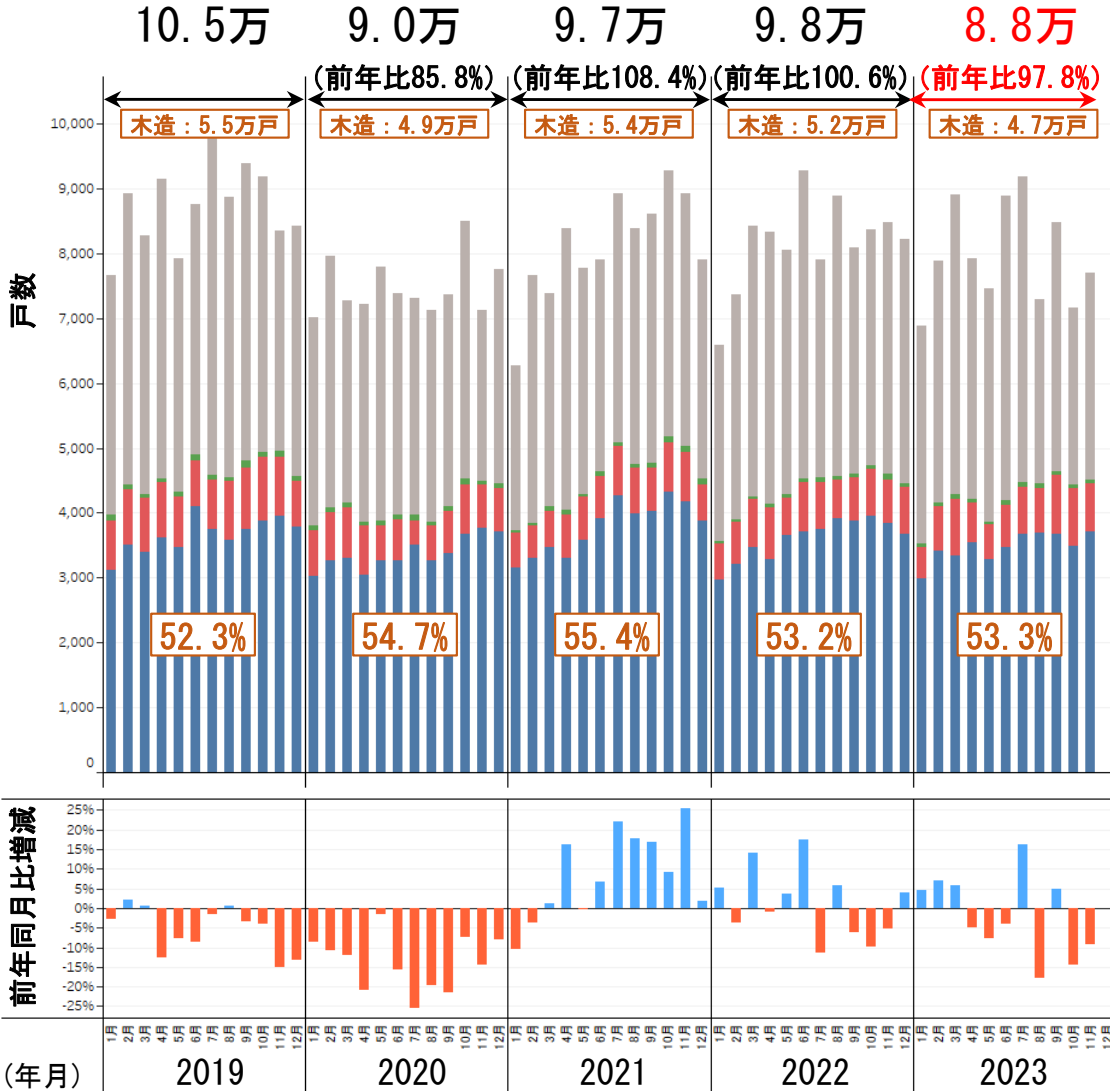


資料：国土交通省「住宅着工統計」

(2) 九州地区の住宅着工戸数 (2019年1月～2023年11月)

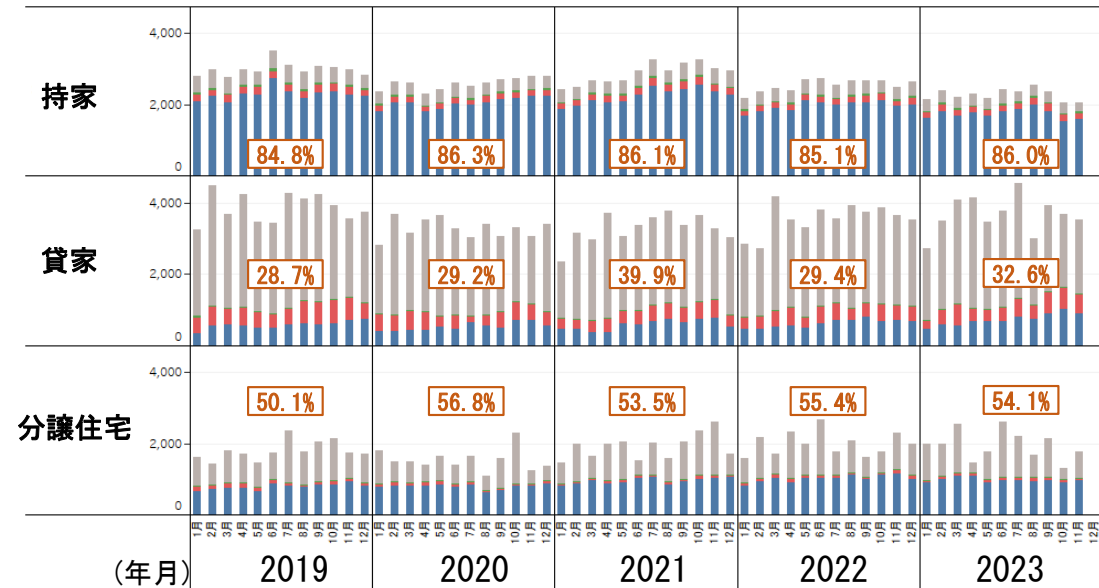
- 2022年の新設住宅着工戸数は、9.8万戸（前年比100.6%）、このうち木造住宅は5.2万戸（同96.7%）。
- 2023年1～11月の新設住宅着工戸数は、8.8万戸（前年同期比97.8%）、このうち木造住宅は4.7万戸（同98.0%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2023年 1～11月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	87,795	89,777	97.8%	89,548	98.0%
■非木造	41,029	42,060	97.5%	40,090	102.3%
木造	46,766	47,717	98.0%	49,458	94.6%
■木造プレハブ	683	617	110.7%	676	101.0%
■2×4	7,783	7,479	104.1%	7,243	107.5%
■在来軸組	38,300	39,621	96.7%	41,539	92.2%
□木造率	53.3%	53.2%		55.2%	

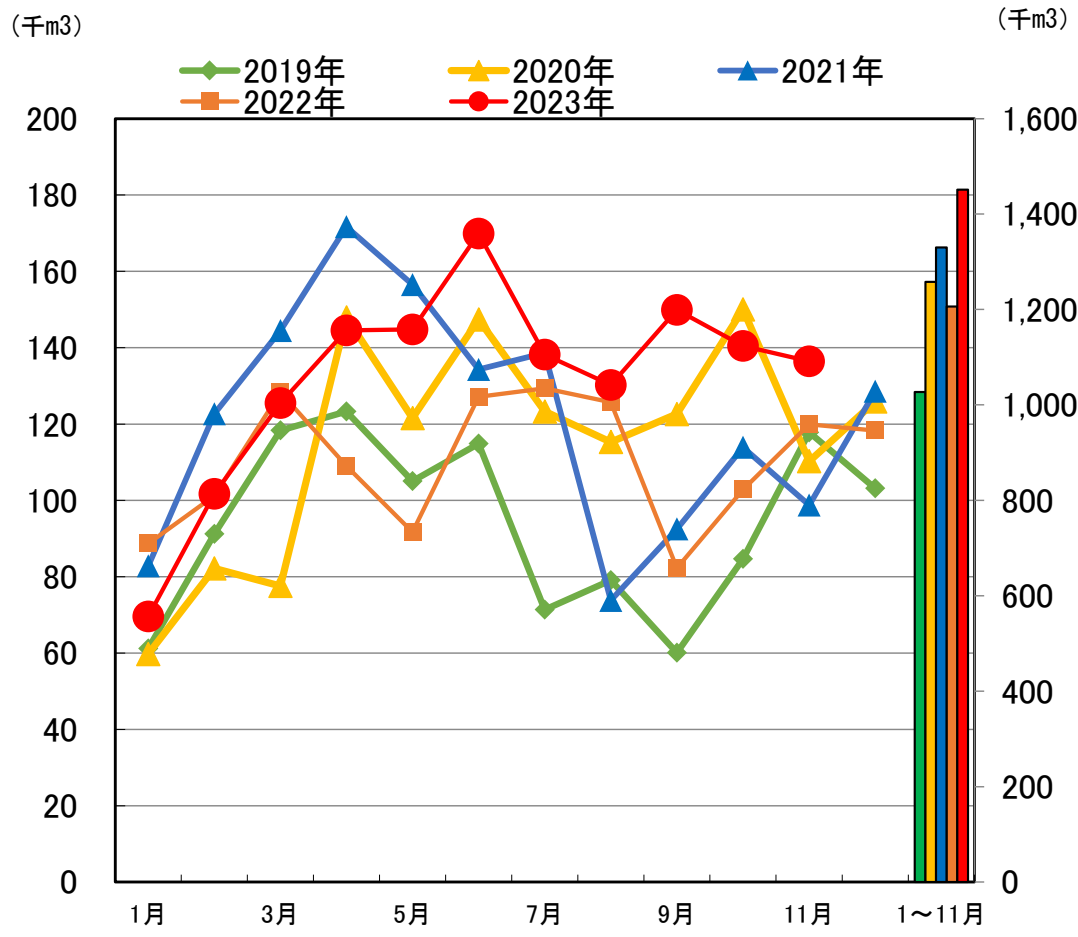
(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)



4 木材輸出量

・ 2023年 1～11月の木材輸出量は、丸太1,451千³m（前年同期比120%）、製材124千³m（前年同期比77%）、合板105千³m（前年同期比89%）となった。

○丸太輸出量の推移（月別）



資料：財務省易統計
 ※貿易統計の第4403, 4407, 4412の一部類を集計
 ※四捨五入により、数値が合わないことがある

○木材輸出量の状況（累計：主な国別・品目別）

輸出先	11月 単月			1～11月累計		
	主要品目内訳(千m3) 前年比(%)			主要品目内訳(千m3) 前年比(%)		
	丸太	製材	合板	丸太	製材	合板
中国	123 117%	6 117%	0 111%	1,291 126%	51 91%	3 57%
韓国	7 92%	1 70%	0 —	88 84%	7 92%	0 48%
台湾	5 90%	1 74%	0 —	67 94%	16 121%	0 —
米国	0 —	2 116%	0 —	0 —	29 81%	0 94%
フィリピン	0 —	2 113%	9 82%	0 —	15 36%	102 91%
その他	0 —	0 174%	0 16%	0 —	5 105%	0 60%
総計	136 114%	12 109%	10 83%	1,451 120%	124 77%	105 89%

○税関ごとの丸太輸出量

税関名	管轄※	合計(千 ³ m) 1～11月	比率 1～11月
函館税関	北海道,青森,岩手,秋田	265.6	18.3%
東京税関	山形,群馬,埼玉,千葉,東京,新潟,山梨	16.5	1.1%
横浜税関	宮城,福島,茨城,栃木,千葉,神奈川	23.7	1.6%
名古屋税関	長野,岐阜,静岡,愛知,三重	13.8	0.9%
神戸税関	兵庫,鳥取,島根,岡山,広島,徳島,香川,愛媛,高知	14.6	1.0%
大阪税関	大阪,京都,和歌山,奈良,滋賀,福井,石川,富山	28.4	2.0%
門司税関	山口,福岡,佐賀,長崎,大分,宮崎	375.9	25.9%
長崎税関	福岡,佐賀,長崎,熊本,鹿児島	712.4	49.1%
沖縄地区税関	沖縄	0.0	0.0%

※木材の集荷範囲とは対応していない